

戦後八十年の一年を振り返って

昨年少数与党に後退し成立した石破内閣は、選挙で示された国民の願いには程遠い政治でした。

今年7月の参院選でも自公政権を少数勢力に追い込み、私達の生活苦の改善や願いを実現させようと野党と市民の共闘の実現に力を尽くしました。

長野選挙区では共闘が成立し、羽田候補が43万334票で勝利しました。比例区では共産党は井上哲士候補の再選が叶わず、池田町でも473票という得票結果でした。比例全体でも改選4議席から2議席に後退し残念な結果となりました。ご支援いただいた皆さんには心から感謝致します。

この選挙では外国人をめぐる偽情報や誤情報がSNSで拡散し、一部政党が排外主義をあおって支持を揚げました。自公政権は少数となりましたが大きな問題を残しました。選挙後石破内閣は交代しましたが、次の自民党総裁を選ぶ総裁選でマスメディアは自民党の宣伝機関のように連日連夜報道し続け、ジャーナリズムとしての役

割を投げ捨てました。総裁にはタカ派の高市氏が選出され、連立を組んでいた公明党は連立を解消し日本維新の会と組みました。維新は連立条件として「企業団体献金の禁止」ではなく「議員定数の削減」を押し付け多様な民意のきりすてを図っています。

高市政権は国民が求める消費税減税や企業団体献金禁止には触れず、暮らしと憲法を壊すメニューがズバリと並びました。非常に危険な政権になりそうです。

3月東京地裁が旧統一教会に対し「類例がない膨大な規模の被害を生じさせた」として解散を命じました。韓国政府も統一教会が政権に対して違法な働きかけをしているとして解散命令を検討していると報じられています。一刻も早く決着を!!

最後になりましたが今年一年読者の皆さまには大変お世話になりました。ありがとうございます。

ファンクラブ会長 太田勲

町の話題

「池田町義務教育あり方検討委員会」の動き

少子化により小中学校のあり方を話し合う「池田町義務教育あり方検討委員会」において、池田・会染両小学校の入学数が合わせて20人未満になった場合、再編を前提の検討会を行うことを決めたと報告されました。現在池田小学校1年生は(18人)、会染小学校1年生は(20人)です。各小学校の特徴もあるなか、継続の意見・早期再編の意見はそれぞれに強いとのこと。各小学校の入学児童が10人未満になれば「検討会」が再編に向けて動くことになりそうです。

4月からの民間保育園の開園により児童数が増えることも今後期待されるかもしれませんが、少子化対策を具体的に提案しなければと思います。



コラム 有明

働いて働いて働いて働いて働いて、ご存じの今年の流行語大賞だ。言葉に酔って

しまいそうで恐ろしい。高物価に低賃金で生活が厳しい、将来に希望が持てない、こんな時こそ何かやってくれそうだと期待を持ってしまおう▲八十路をむかえる筆者をふくめ、戦後の日本の経済復興を支えてきた人々は勤勉な日本人という評価にある意味誇りを持ちながらしやにむに働いてきたのではないだろうか。あぐく過労死という日本語が世界共通語になるような事態になった。この反省からスローフード、スローライフという言葉がいわれるようになり、やつと人間らしい自由な生活そして生き方が求められる世の中になったと思っていれば、時の総理から昔に逆戻りしたような発言が飛び出した▲世界でも日本でも貧富の格差はとんでもなく大きくなり、アメリカの青年をはじめ、ヨーロッパ各地でも資本主義の矛盾と社会主義を見直す動きが広がっているなかで歴史の逆行といえる発言といえる。働いてではなく働け働け死ぬまで働けと聞こえてくる。